

『ナカポツ基幹型モデル的取組調査事業（仮称）』事業概要

特定非営利活動法人全国就業支援ネットワーク

□ 事業の目的

地域における障害者の就業に伴う生活面の支援ニーズへの対応力を向上させるため、障害者就業・生活支援センターについて、基幹型の機能も担う地域の拠点としての体制を整備し、地域の就労支援ネットワークの強化、充実を図る。

□ 事業の内容

- ① 令和4年度、5年度に厚生労働省より受託して実施した『定着支援地域連携モデルに係る調査事業』の結果を踏まえて、障害者就業・生活支援センターにおける以下の取組について、その取組にあたっての課題を分析し、基幹型の機能・役割を整理する。（令和6年6月）
 - 就労定着支援事業所その他の就労系障害福祉サービス事業所に対するスーパーバイズ（個別の支援事例に対する専門的見地からの助言及びそれを通じた支援の質の向上にかかる援助等）に係る取組
 - 地域の就労支援機関との連携に係る取組
- ② 上記①を踏まえ、これから①の取組を実施していこうとしている障害者就業・生活支援センター（実施センター）を全国から公募し、その取組を二人三脚で応援していただけるセンター（応援センター）とのマッチングを勘案したうえで、4～6センターを選出してモデル的取組を実施するとともに、当該センターが属する地域の就労支援機関に対し、障害者の就業に伴う生活面の支援に係る意識調査を実施する。（7月～12月）
- ③ 上記②のモデル的取組及び意識調査の結果を踏まえ、基幹型としての障害者就業・生活支援センターの機能・役割を再整理し、「第11回障害者就業・生活支援センター事業をより深く考えるための全国フォーラム（ナカポツフォーラム）」において、モデル的取組の実践について共有する。（令和7年1月～2月）

□ 事業の経費

当ネットワークの会員のナカポツセンターを対象とした事業です。実施センターと応援センターの相互訪問に係る旅費交通費については、実費（1センターにつき上限100,000円）を当ネットワークが負担します。

□ モデル的取組実施の流れ（例）

〔7月〕 モデル的取組を実施していただく4～6センター（実施センター）と、その取組実施を二人三脚で応援していただくセンター（これまでご協力いただいた16センターの中から再協力を依頼する応援センター）を選出する。

〔8月〕 第一回オンラインミーティング（実施センター・応援センター・ブロック担当役員・事務局）にて、実施計画の打合せをする。

〔9月〕 実施センターが応援センターを訪問し、取組のポイントを学ぶ。同時に、圏域内の就労支援機関意識調査を実施する。

〔9月～12月〕 実施センターが、応援センターのノウハウおよび圏域内調査結果の内容を活かして、モデル的取組を実施する。

〔10月〕 第二回オンラインミーティングにて、取組実施の進捗確認をする。

〔12月〕 応援センターが実施センターを訪問し、取組の進捗や成果を確認・共有する。

〔1月〕 第三回オンラインミーティングにて、実施結果の振り返り・総括をする。

〔2月〕 ナカポツフォーラムにて実践報告をする。

- ・ブロック担当役員および事務局は、相互の現地訪問に適宜参加して取組をサポートする。
- ・事業の正式名称は会員より公募し、7月度役員会にて決定する。

□ モデル的取組実施を二人三脚で応援していただく応援センターの候補

北海道：札幌障がい者就業・生活支援センターたすく

青森県：障害者就業・生活支援センターみなと

埼玉県：障害者就業・生活支援センターCSA

千葉県：障害者就業・生活支援センター香取就業センター

千葉県：障害者就業・生活支援センターピア宮敷

静岡県：障害者就業・生活支援センターぼらんち

岐阜県：清流障がい者就業・生活支援センターふなぶせ

兵庫県：北播磨障害者就業・生活支援センター

徳島県：障害者就業・生活支援センターわーくわく

鹿児島県：あいらいさ障害者就業・生活支援センター

北海道 石狩障がい者就業・生活支援センターのいける

群馬県 障害者就業・生活支援センタートータス

茨城県 水戸地区障害者就業・生活支援センター

三重県 津地域障がい者就業・生活支援センターふらっと

奈良県 なら中和障害者就業・生活支援センターブリッジ

沖縄県 障害者就業・生活支援センターブリッジ